

東京の都市インフラ強靱化人材育成拠点の創出（都立蔵前工科高等学校）

- 今後30年以内に約70%の確率で首都直下地震の発生が見込まれる中、2040年には都内公共建築物の6～7割が築50年超となり更新需要が集中する一方、建設業の担い手は2045年に14万人減少する見込みであり、都市強靱化への対応が急務
- 従来の施工・保守の技能に加え、デジタル技術を活用して省人化と維持管理を担う「社会基盤DX人材」の育成拠点を創出

人材育成の現状・課題

- 限られた人材で都市インフラを支えるには、**学科の枠を越えて都市インフラを丸ごと理解する力**、DX技術を活用しながら**リアルな現場とデジタルツインを往復し学びを深める力が不可欠**であり、学科完結型の従来の教育を転換し、**学科横断のプロジェクト学習や先端設備実習を通じて、学びの「質」を高めることが必要**
- 一方、高度化と魅力発信を一体的に進め、**担い手の「量」も確保する必要**

- ・ 築50年以上の都管理橋梁：2026年 5割 → 2046年 8割
- ・ 都内建設業従事者：2045年に2020年比▲14万人（推計）
- ・ 人材の需給ギャップ：AI等の利活用を担う**専門職人材▲5.5万人**、**生産工程管理を担う現場人材▲10.5万人**
- ・ 一般選抜倍率（蔵前工科）：R5 0.75倍→R6 1.03倍→R7 0.71倍

具体の事業内容

■ 拠点における主な改革目標

- ・ 担い手不足への対応と維持管理の省人化・高度化の実現に寄与し、**インフラ維持管理の高度化を担う「社会基盤DX人材」を育成する教育システムを構築**

■ 教育改革の内容

■ KURAMAE CREATE PROJECT (KCP)

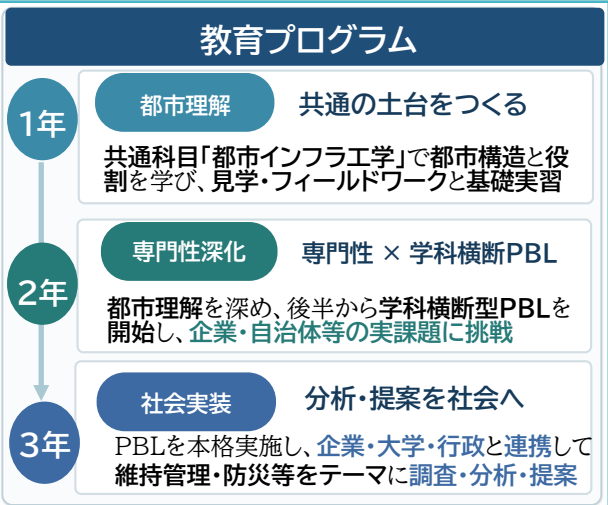
- ・ 都市インフラに関する**実社会の課題を題材**として、**学科横断型のプロジェクト学習や企業・大学・行政との連携**を通じ、データやツールを活用した**課題解決**に取り組む**教育を展開**
- ・ 社会基盤分野におけるDXの推進と持続可能な都市づくりを担う高度専門人材を育成

■ 施設・設備の整備

- ・ **ロボットや3Dプリンタ等を備えた実習環境を整備し、省人化・自動化技術を実践的に習得**
- ・ インフラのデジタル化や予知保全を扱う環境を整備し、**データに基づく維持管理を学ぶ場を構築**

■ 他校への普及方策

- ・ 協力校4校との共同実証等を通じ、適用可能な標準モデルへ発展させ、都立工科15校へ普及



社会基盤DXコンソーシアム



社会基盤DX教育モデル共同開発



都立工科高校15校へ普及

実施体制

協力校	都立葛西工科高校、都立総合工科高校、都立墨田工科高校、都立北豊島工科高校
主な連携機関等	JR東日本、東京電力、NTT東日本、飛島建設、東京都立大学、台東区 等